

令和3年度 地震・防災研究課予算(案)

令和3年1月25日

9.(3)自然災害に対する強靱な社会に向けた研究開発の推進

概要

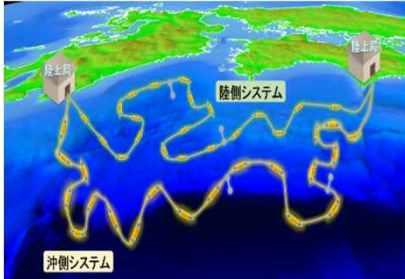
- ◆南海トラフ地震の想定震源域の西側(高知県沖～日向灘)にかけて**南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)**を整備する。
- ◆**防災ビッグデータの収集・整備・解析**を推進し、官民一体となった総合防災力向上を図る。
- ◆**地震調査研究推進本部の地震発生予測(長期評価)**に資する調査観測研究、**海底地震・津波観測網の運用**、**南海トラフ地震**等を対象とした調査研究、**情報科学を活用した地震調査研究**、**先端的な火山研究の推進と火山研究人材育成**、**機動観測体制整備**などを推進。
- ◆**地震・火山・風水害**等による災害等に対応した**基盤的な防災科学技術研究**を推進。

海底地震・津波観測網の構築・運用

1,073百万円(1,017百万円※)
※このほか、前年度予算には臨時・特別の措置を含む

南海トラフ地震は発生すると大きな人的、経済的被害が想定されているが、**想定震源域の西側(高知県沖～日向灘)は海域のリアルタイム海底地震・津波観測網が整備されていない。**

南海トラフ地震の解明と防災対策への活用を目指して、当該地域に**南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)**を整備するため、56百万円を計上。



また、日本海溝沿い及び紀伊半島沖～室戸沖に整備したリアルタイム海底地震・津波観測網を運用するため、1,017百万円を計上。

地震調査研究推進本部関連事業

945百万円(852百万円)

地震調査研究推進本部の**地震発生予測(長期評価)**に資する調査観測研究等を推進。(事業)

- ・活断層調査の総合的推進
- ・地震調査研究推進本部支援 等



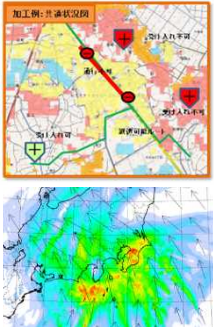
基盤的・基盤的な防災科学技術の研究開発の推進

国立研究開発法人防災科学技術研究所 7,661百万円(7,609百万円)
【令和2年度第3次補正予算額(案):417百万円】

防災科学技術研究所において、**地震・火山・風水害等の各種災害に対応した基盤的な防災科学技術研究、オープンイノベーション**を推進。

(事業)

- 自然災害観測・予測研究**
 - ・地震・津波・火山の基盤的観測・予測研究
 - ・基盤的地震・火山観測網の維持・運用
- 減災実験・解析研究**
 - ・Eーディフェンス等を活用した社会基盤強靱化研究
- 災害リスクマネジメント研究**
 - ・極端気象災害リスクの軽減研究
 - ・自然災害のハザード評価に関する研究
 - ・自然災害に関する情報の利活用研究 等



◀基盤的防災情報流通ネットワーク(SIP4D)の活用

◀日本海寒帯気団収束帯による豪雪災害の観測・予測

その他の事業

- ・**首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト** 391百万円(456百万円)
首都直下地震等への防災力を向上するため、**官民連携超高密度地震観測システムの構築**、**非構造部材を含む構造物の崩壊余裕度に関するセンサー情報及び映像情報等の収集**により、官民一体の総合的な災害対応や事業継続、個人の防災行動等に資する**ビッグデータを整備**する。
- ・**情報科学を活用した地震調査研究【新規】** 152百万円(新規)
これまで蓄積されてきたデータをもとに、IoT、AI、ビッグデータといった情報科学分野の科学技術を活用した調査研究を行う。
- ・**防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト** 378百万円(420百万円)
防災基本計画に基づき、地方自治体の防災施策に活かすため、**南海トラフ沿いの異常な現象の推移予測**に資する調査研究を行う。
- ・**次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト** 640百万円(664百万円)
火山災害の軽減に貢献するため、他分野との連携・融合を図り、「**観測・予測・対策**」の一体的な火山研究と**火山研究者の育成**を推進。
- ・**火山機動観測実証研究事業【新規】** 62百万円(新規)
火山の総合理解を目的として、平時及び緊急時に**人員や観測機器を集中させた迅速かつ効率的な機動観測を実現**するため、**必要な体制構築**を行う。

